



国際交流レター

2006 vol.28

International Exchange Letter



C o n t e n t s

巻頭言 1

第10代国際交流委員長 中野裕治

TOPICS 2

第16回外国人留学生弁論大会
大学と国際交流のあゆみ

交流協定校紹介 4

- アメリカ： モンタナ州立大学
 キャロル大学
 モンタナ大学
 インターネットワード大学
 ウィスコンシン大学オークレア校
- カナダ： セント・メアリーズ大学
 カールトン大学
- イギリス： リバプールジョンモーズ大学
- オーストラリア： ラトロープ大学
- ニュージーランド： ユニテック
- 韓国： 大田大学校
- 中国： 深圳大学
 中国人民大学
 北京外国語大学
 北京語言大学
 北京第二外国語学院
 広西師範大学(熊本市派遣のみ)
- タイ： チュラロンコーン大学
- ベトナム： ベトナム国家大学ハノイ校

世界の英語いろいろ 20

留学生出身国の英語の違い

教員交流 21

- 蔡元慶 深圳大学副教授 (中国 深圳市)
- 安根植 大田大学校教授 (韓国 大田広域市)
- 野尻秀之 商学部教授
(アメリカ モンタナ州ミズーラ市 モンタナ大学へ派遣)
- 筒井久美子 外国語学部講師
(韓国 大田広域市 大田大学校へ派遣)

国際交流写真館 26

DATA 28

- 2006年海外往来
留学生数データ
本学留学生への主な案内
交換教員往来
2006年研修団往来

いまこそ留学生たちとの 「知的会話」を



第10代国際交流委員長
中野 裕治

「国際化」という用語を最初に用いたのは、「最大多数の最大幸福」で知られるイギリスの功利主義哲学者ベンサムであり、1789年国際法の必要を論じる際に「他動詞」の意味で用いたといわれている。すなわち、遅れたアジア地域に対し、進んだイギリスの法・慣習・生活様式を適用するという意味での国際化＝「欧米化」であった。ところが、わが国における「国際化」は通常、「自動詞」として用いられることが多い。国際化、すなわち先進諸国の政治・経済・生活様式のわが国への導入＝「欧米化」のごとくである。

ところで、1942年東洋語学専門学校として産声をあげた本学の国際交流の歴史は古い。1982年米国モンタナ州諸大学との姉妹提携から数えても25年目を迎える。この間、「脱欧入亜」あるいは「アジアの時代」といわれて久しいが、本学の交流活動に関していえば、教職員・学生ともに「西洋に学べ」(Look to West)の風潮は変わらない。アジアからの来訪者は多く、つねに安定的であるのにたいし、英語圏からは少ない。そしてこの傾向は当分続くものとおもわれる。海外、とりわけ英語圏からの留学生の増大が当面の課題である。

日頃「国際規格の職業人」の育成を唱える本学坂本学長は、2期目の抱負のひとつとして、昨秋「留学生の受け入れ体制の充実」を挙げた。留学生

といっても、本学にて4年間学ぶ私費留学生、半年ないし1年間滞在する交換留学生、大学院生や研究生と多岐にわたり一概には語れないが、等しく「充実した留學生活」が送れるようにするには、われわれは何にどう取り組むべきかという課題が設定されたものとする。

受け入れ体制の充実、それは畢竟「留学生の知的欲求」を十分満たしてやる体制づくりということではないかとおもう。かつて石油ショック後の経済の立ち直りの速さ（「東洋の神秘」）を尋ねて、日本を訪れる留学生が多かった。現在は日本発のアニメブームに触発されて日本語を学ぶ学生が少なくない。それはそれで結構なことである。しかし、本格的国際交流を始めて四半世紀が経った今日、時流を越え、着実に主体的な交流を目指すためには、本学にしかできない魅力ある教育・研究活動を提供する必要がある。

本誌から行間に流れる「あるべき国際交流のありかた」を汲み取っていただければ幸いである。いまこそ全学を挙げて、肩の力を抜き、留学生たちとの「知的会話」を始めるときが訪れたとおもう。そうして、はじめて「自動詞」としての国際化から、本来の意味である「他動詞」としての国際化というルネッサンスへの道が開けるものとおもわれる。

第16回外国人留学生弁論大会 ～ 最優秀賞は中国からの留学生 謝 玄 さん ～

第16回外国人留学生弁論大会が平成18年6月17日(土)、学生会館4階多目的ホールで開催された。現在、本学には13カ国141名の留学生が在籍しており、当日は7カ国15名の留学生が日本での留学生活の中で感じた思い等を流暢な日本語で熱弁をふるった。会場には、高校生・学生・市民ら約250名の聴衆が集まり、立ち見が出る盛況ぶり。今回は、審査の合間にこの弁論大会のために結成された留学生バンド“Acoustic Tomatoes”が素晴らしい演奏や歌を披露し、会場を沸かせた。

審査の結果、最優秀賞には「私とJR」のテーマで、日頃よく利用しているJRについて運行時間の正確さに驚いたエピソードを披露した中国からの留学生謝玄さんが輝いた。また聴衆者投票によるオーディエンス賞は、人生を富士登山に例え「富士山との戦い」のテーマで発表したセント・メアリーズ大学からの交換留学生、マイケル・ヘンマンさんが努力賞とあわせ受賞した。



▲[前列左から]
バーリーナー・ウンスッカセーム、
金容宇、賈嘉、ファム・チュック・クイン、
沈剣嵐、張小燕、張軍、金鎮植、
[後列左から] パトリック・ジョイス、
高峰、謝玄、景悦、クリス・エクホード、
李孟超、マイケル・ヘンマン

◀最優秀賞の謝玄さん

賞	氏名	出身国	所属	テーマ
最優秀賞	シャ 謝 ゲン 玄	中国 China	社会福祉学科4年	「私とJR」
優秀賞 (内容部門)	ファム チュック クイン Pham Truc Quynh	ベトナム Vietnam	英米学科3年	「理想的な奥さんとは？」
優秀賞 (日本語部門)	カ 賈 カ 嘉	中国 China	経営学科3年	「ダンスの人生」
優秀賞 (技術部門)	ガオ フォン 高 峰	中国 China	経営学科3年	「日本人は 何を考えているの？」
努力賞	キム ジン シック 金 鎮 植	韓国 Korea	東アジア学科3年	「食文化」
	マイケル ヘンマン Michael Henman	カナダ Canada	国際経済学科4年	「富士山との戦い」
	バーリーナー ウンスッカセーム Pareena Wongsukkasem	タイ Thailand	国際経済学科4年	「3つの動機」
	クリス エクホード Chris Eckford	ニュージーランド New Zealand	英米学科2年	「故郷」
オーディエンス賞	マイケル ヘンマン Michael Henman	カナダ Canada	国際経済学科4年	「富士山との戦い」

大学と国際交流のあゆみ

◆ 大学の歴史 ◆

1942(昭和17)年	東洋語学専門学校創立
1946(昭和21)年	熊本語学専門学校と改称
1950(昭和25)年	熊本短期大学設立
1952(昭和27)年	大江キャンパス(現在地)へ移転
1954(昭和29)年	学校法人熊本学園 設立 熊本商科大学設立
1956(昭和31)年	熊本短期大学付属敬愛幼稚園設立
1959(昭和34)年	熊本商科大学付属高等学校設立
1967(昭和42)年	熊本商科大学に経済学部を増設
1994(平成6)年	熊本商科大学と熊本短期大学を統合 外国語学部、社会福祉学部を増設 熊本学園大学と改称
1995(平成7)年	本学と熊本大学、熊本県立大学との三 大学間で「単位互換制度」発足
2002(平成14)年	沖縄国際大学との単位互換制度発足

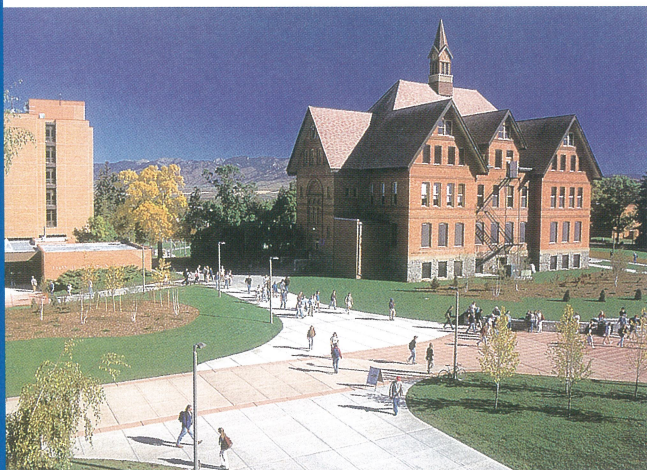
◆ 国際交流の歴史 ◆

1961(昭和36)年	中南米事情研究所 開設
1962(昭和37)年	県費留学生の受入開始
1966(昭和41)年	教員の長期留学制度発足
1972(昭和47)年	中南米事情研究所が海外事情研究所に名称変更
1981(昭和56)年	研究留学生の受入開始
1982(昭和57)年	国際交流委員会設置 アメリカ・モンタナ州の大学(モンタナ州立大学・ モンタナ大学・キャロル大学等)と姉妹校提携、短 期交換留学制度発足
1983(昭和58)年	外国人留学生の入学試験開始 モンタナ研修サマープログラム制度開始
1984(昭和59)年	モンタナ州立大学と交換教員派遣制度発足
1985(昭和60)年	韓国・大田大学校と姉妹校提携
1987(昭和62)年	中国・深圳大学と姉妹校提携
1988(昭和63)年	交換留学制度開始
1990(平成2)年	熊本市・サンアントニオ市留学生交流事業に基 づく交換留学制度発足
1992(平成4)年	総務課国際交流室から国際交流センター事務室と して独立 イギリス・リバプールジョンモーズ大学、フラン ス・リヨン商科大学と協定
1994(平成6)年	ドイツ・ラインランド・プファルツ州立大学と交 換留学制度
1995(平成7)年	フランス・リヨン商科大学との交流停止 大田大学校との交換留学制度発足
1996(平成8)年	ドイツ・ラインランド・プファルツ州立大学との 交流停止
1997(平成9)年	モンタナ研修サマープログラム制度廃止
1998(平成10)年	ニュージーランド・ユニテックと学生交流協定締結
1999(平成11)年	中国・北京語言大学、北京外国語大学、中国人民大 学、およびイギリス・アルスター大学と学生交流協 定締結 アメリカ・インカーネットワード大学と大学間交流 協定締結
2000(平成12)年	カナダ・セント・メアリーズ大学と学生交流協定締 結 ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校と大学間交流 協定締結
2001(平成13)年	タイ・チュラロンコーン大学と大学間交流協定締結 カナダ・カールトン大学と大学間交流協定締結
2002(平成14)年	アメリカ・ウィスコンシン大学オークレア校と大学 間交流協定締結
2003(平成15)年	オーストラリア・ラトロブ大学と大学間交流協定 締結
2004(平成16)年	中国工商銀行都市金融研究所と学術交流協定締結
2005(平成17)年	北京第二外国語学院と大学間交流協定締結 イギリス・アルスター大学との交流終了

U.S.A.

モンタナ州立大学

Montana State University



- 創 立：1893年
- 学 生 数：約12,300名
- 留学生数：約300名(約70カ国)
- 学 部：農学、芸術・建築、商学、教育、工学、
文理、看護

モンタナ州立大学のあるボーズマンという小さな街は、山に囲まれた自然が豊かなところです。夜の丘に寝転がっているとため息が出るほどの満天の星を見る事ができ、たくさんの流れ星をも見ることができます。

冬はマイナス30度までなる極寒。外に出た瞬間に鼻の中が凍るのがわかります。それでも外で遊ぶのがモンタニアンです。週末になれば近くのスキー場でウィンタースポーツを楽しんだり、夜は山奥で月明かりだけでキャンプファイヤーをしたりします。

また、モンタナにはイエローストーン国立公園という巨大な公園があります。車で移動しなければならぬほど大きく、そこには野生の動物が住んでいたり、温泉が湧き出でいたり、夏場はキャンプをする人で賑わいます。その他にも、暑さをしのぐために川へfloating（フローティング）に行きます。ボーズマンにはきれいで大きな川がどこでも流れているので、水着を着て浮き輪を持って上流から下流まで1時間半ほどただ身を任せてゆっくりゆっくり流されて行きます。鴨や魚と一緒に流されている間は広大な景色を同時に楽しむ事ができます。

モンタナ州立大学は敷地の端から端まで歩くと30分以上かかる大きな大学です。学生の多くはキャンパス内の寮に住んでいるので友達が作りやすい環境です。4階建ての図書館の

中にはコーヒーショップもあり長時間勉強するにはもってこいです。日曜さえも多くの学生が図書館を利用していました。私が1番勉強していて便利だった点は、大学中にインターネットの無線LANがとんでいることです。そのため、自分の部屋に限らずどこでパソコンを開いても、いつでもオンラインで課題に必要な情報を集める事ができ効率よく作業することができました。

〈H17年度交換留学生 英米学科4年 江口 藍〉

モンタナ州は、「ビッグスカイカントリー」と呼ばれるように、見渡す限り広い空でつながっています。朝日、快晴の空、夕暮れ、夜空に輝く星、どれをとっても、感銘を受けずにはいられません。また、スライディングやハイキングへ行けば、雄大な自然を肌で感じることができます。冬は確かに寒いのですが、熊本ではなかなかできないスノーボードなどのウィンタースポーツを手ごろに体験できますし、快適で暮らしやすいところです。モンタナ州立大学は、そんな自然を満喫できるボーズマンというところにあり、キャンパスはまた驚くほど大きいです。

図書館は、ふつう夜12時まで（試験期間は深夜2時まで）開館しており、パソコンなどの設備も整っています。学生にとって、集中して勉学に励める素晴らしい環境であることは間違いありません。学部授業にも比較的入りやすく、自分の興味がある授業を現地の学生と共に受けることができます。先生方も気さくな方が多く、質問等も聞きに行きやすいです。そんなモンタナ州立大学には、日本語のクラスがあり、留学中はそのアシスタントをする機会があります。そして、学校側だけではなく地域の方も、留学生を含めた学生のためにイベントをたくさん用意してくださるので、様々な人たちと出会えて、触れ合いの場を持つことができます。積極的に参加すれば、貴重な経験ができる。モンタナ留学は、そんな素敵な機会が溢れています。

〈H17年度交換留学生 英米学科4年 倉岡亜希子〉

If you want a university with friendly people, challenging academic programs, and the most unspeakably beautiful surroundings on Earth, Montana State University is the only choice. Located in Bozeman, Montana, and nestled between two burly arms of the Rocky Mountains, the view from MSU's windows is breathtaking.

While studying in Bozeman, you can also explore a wide variety of outdoor sports much more easily (and cheaply) than you might in Japan. Skiing, snowboarding, whitewater

rafting, golf, rock climbing, fly-fishing, horseback riding: all are available within an hour's drive.

Breathtaking beauty and thrilling outdoor sports aside, the best reason to give MSU a try is its people. Montana is known around the world for the open-armed friendliness of its people, and MSU does not disappoint this reputation. The student population is ethnically and culturally diverse, with students from dozens of countries and all over the USA. Clubs exist for nearly every interest, among them fencing, yoga, aikido, drama, language, ballroom dance, recycling, and so on. The Japan Club will probably want your help!

In short, everything you could possibly want from your study abroad experience is wrapped up neatly in Montana State University-Bozeman. Why not give our legendary Montana hospitality a try?

〈Chris Petroni, Exchange student 2004〉

Montaña in Spanish means "mountain." Montana State University is located in the heart of the Gallitan County of Montana, and is surrounded on all four sides by large mountain range. Because MSU is located so close to the mountains, outdoor activities at Montana State University are extremely popular. Within one hour travel-time of MSU, there are two major ski resorts, many places to rock climb, and over 30 hiking/bike trails. MSU experiences snow 9 months of the year, so skiing in the area is very good. MSU is also located only an hour away from one of the best rivers for fly fishing in the world. If you love outdoor activities, MSU is the place for you.

Montana State University has a population of over 13,000 students and is the largest university in the state of Montana. With so many students, there are many opportunities to meet new friends and try new things. MSU offers many different types of clubs, ranging from fencing and computer clubs to the Japan club and the literature club. MSU's facilities are nice and the university is continually improving. Not only can you take interesting courses, you also are given the opportunity to take a fun class like bowling or billiards.

Overall, Montana State University is situated in one of the most beautiful places on earth, surrounded by things to do, and has many opportunities to broaden your horizons.

〈Chris Huvaere, Exchange student 2006〉

MSU Bozeman is a beautiful college with a friendly atmosphere. The local attractions include hiking, camping, fishing, mountain biking, rafting, sporting events, skiing, and more. There are also many campus groups to enjoy and take part in. MSU is also known for being open minded and friendly to international students.

The city of Bozeman is nestled in the Gallatin Valley and is surrounded by the Rocky Mountains. Bozeman is a friendly town with a little something for everyone. For these reasons Bozeman is the fastest growing town in Montana, yet it still has the feel of a small town.

〈Samuel 侍 Jensen, Exchange student 2006〉

Montana Sate University in Bozeman, Montana, does well to represent the raw beauty characteristic of Montana State. Located in the heart of the Bridger Mountains, it is a pleasant utopia for any thrill-seeking adventurer. Many exciting outdoor activities are only a short drive away, including rock climbing, rafting, hiking, camping, and skiing and snowboarding, during the winter season. MSU in Bozeman is known for its strong engineering and architecture programs, as well as its partnership with many international programs. The annual food bazaar is an exciting event that gives all the international students on campus an opportunity to represent their home countries by dressing in their traditional attire and cooking food from their countries. Events like this showcase the importance placed on diversity at Montana State University. It is an exciting yet quiet place to live, and has become an important stepping stone to many on their journey for both technical and cultural understanding.

〈Rob Fell, Exchange student 2006〉



Montana, U.S.A

U.S.A.

キャロル大学

Carroll College



- 創 立：1909年
- 学 生 数：約1,400名
- 留学生数：23名(10カ国)
- 学 科：経営・会計、コミュニケーション学、
教育、環境、芸術、歴史、国際関係、
言語学・文学、理学、自然科学、看護、
哲学、政治、心理、社会 他

Carroll College is a friendly college in Montana's small town capital of Helena. Besides strong academics, the school also is located close to lots of National Parks and beautiful scenery. Often you can find deer on the campus. And most important, Adam Zollo goes there!

〈Adam Zollo, Exchange student 2005〉

Carroll College is an outstanding university for all those seeking a unique experience abroad. The students, faculty, and staff are all great people and very helpful. The university itself is situated in the capital city Helena - an amazing area for all those interested in outdoor activities such as rock climbing, camping, hiking, and biking. Carroll offers an excellent English program for exchange students as well. The university as well as the city is very homely with its own sense of character and pizzazz.

〈Todd McKay, Exchange student 2005〉

モンタナ州の州都ヘレナ市に位置するキャロル大学は、学生が1,300~1,400人ほどの小規模でとてもアットホームな大学です。そこに住む人々は非常に親切で明るく、大自然は美しく、日々生き生きとした毎日を送れます。日本からの留学生の数が少ないので、留学期間中は英語でコミュニケーションを取ることにどっぷりと浸かりたいという人には最適な場所かもしれません。またアウトドアスポーツが好きの人にもお勧めです。ヘレナではスキーやスノーボードを始め、カヤックやラフティング、そしてハイキングを楽しむことができます。素敵な人々に多く出会えるキャロル大学とヘレナ市は本当に素晴らしい場所だと思います。

〈H17年度交換留学生 国際経済学科5年 高野 清華〉

U.S.A.

モンタナ大学

The University of Montana



- 創 立：1893年
- 学 生 数：約13,600名
- 留学生数：約320名
- 学 部：人文科学、森林学、技術工学、経営、
教育、芸術、ジャーナリズム、法律、
薬学・健康科学

The University of Montana is comprised of three colleges - arts and sciences, forestry and conservation, and technology - and six schools - journalism, law, business, education,

pharmacy and the fine arts. The enrollment is approximately 13,300 students. The University is located in the city of Missoula, which has a population of approximately 60,000 and is nestled in the Rocky Mountains of western Montana. The city offers a unique blend of small town charm and big city sophistication and its residents are known for their friendly and welcoming disposition. Missoula, a safe and beautiful location offering many outdoor and cultural activities year round, is an ideal setting for university students.

〈Meghan Squires,
Assistant Director, Office of International Programs〉

大学はモンタナ州ミズーラという比較的小さな町の中心部に位置し、広大な自然に囲まれたとても自然豊か（自然すぎる？）な町にあります。大自然にかこまれつつも、大学の周りは学生街として栄えており車社会のアメリカですが、市営のバス、自転車、徒歩で行動できるとても便利な町です。また、一步町の外に出てみれば、イエローストーン、グレーシャー国立公園など日本では見ることが出来ないすばらしい大自然に触れることが可能です。

大学内部には、食堂はもちろんのこと生活に必要な施設、店、銀行などがそろっているので、大学の敷地から出なくても生活にはなにも不自由することがないようになっています。

私が個人的にお気に入りの場所は大学の裏にあるM山!! 山のとっぺんに大きな「M」という文字があってそこまでがハイキング道になっているのです！留学に疲れて祖国が恋しくなったら是非登ってみるとステキな事が・・・☆

〈H15年度交換留学生 英米学科卒業 川原 綾〉

私が一年間過ごしたモンタナ大学は、とにかく豊かな自然に囲まれています。キャンパスを歩けば野生のリスが走り回り、夜になれば満天の星空が広がります。つらいきついことがあってもこの自然の雄大さに嫌なことも忘れてしまうくらいです。大学の特徴として、世界各国からの留学生がいることから、アメリカだけでなく異文化交流の機会が多々あります。またモンタナ大学のあるミズーラは小さい田舎町ですが、ダウンタウンやショッピングモールもありとても住みやすいです。ミズーラの人々は皆温かく、また地域と大学との関わりも深いので世代の違う人たちとも交流できます。モンタナ大学に留学して本当に良かったと思っています！とにかくモンタナ大学はお薦めの大学ですよ！！

〈H16年度交換留学生 英米学科卒業 境 亜矢子〉

U.S.A.

インカーネットワード大学 University of the Incarnate Word



- 創 立：1881年
- 学 生 数：約5,600名
- 留学生数：約320名（48カ国）
- 学 部：人文、社会科学、経営、教育、
双方向メディア・デザイン、理工学、
看護・健康科学、薬学

Despite the stereotype, Texas is a great state to live in! San Antonio is just the right-sized city, and it resembles Kumamoto in many ways. And as for Incarnate Word University, the atmosphere and friendly people are just like that of KGU. Of all the places to go, I think that Texas is the best place to study English and, not to mention, has heavy big steaks and hamburgers. You will not be disappointed, I can assure you that!

〈Angelo Pardo, Exchange student 2005〉

テキサス独特の誇りを持ち、様々な人種がともに学習するインカーネットワード大学。アジア人はもとより、ヒスパニックと呼ばれる南米からの学生と触れ合い、更にスペイン語も学べちゃうのもこの大学の持ち味！大学内でのイベントが昼夜いつも行われており、学生が主体の大学！街は誰しも足を止める有名な観光名所リバーウォーク！歴史を思わせるアラモの砦！去年NBAチャンピオンのSPURSはサンアント

ニオのチーム！そのNBA観戦！なんとと言ってもアメリカで9番目の大都市でありながら、自然あふれる都市サンアントニオ。その貴重な1年間を思い出た皆さんのサンアントニオで過ごしてみては？

〈H17年度交換留学生 英米学科5年 栗津 武志〉

Discounted Excursions and Activities, and Full-Time International Student Advisors. Please visit us at <http://www.uwec.edu/home/> and we hope to see you soon at UWEC!

〈Phillip J. Huelsbeck, International Student Advisor〉

U.S.A.

ウィスコンシン大学 オークレア校

University of Wisconsin - Eau Claire



- 創立：1916年
- 学生数：約10,500名
- 留学生数：約500名(約50カ国)
- 学部：芸術・科学、経営、看護・健康科学、教育・人文科学

The University of Wisconsin-Eau Claire was founded in 1916, and it is located in the north central part of the United States in the city of Eau Claire, Wisconsin. Eau Claire has a population of 62,000, and it is located 90 miles east of Minneapolis. UWEC is known as Wisconsin's most beautiful campus. UWEC is a nationally ranked public university with a student population of 10,500 and faculty and academic staff of 750. Read about our recognitions and accomplishments at:

<http://www.uwec.edu/advantage/index.htm>

Strong international student support services are offered including the following: Host Family/Friend Program, Week-Long Orientation Program, Summer and Academic Year ESL Programs, Guaranteed On-Campus Housing,

私の派遣先であるウィスコンシン州のオークレアは、五大湖の近くにある自然豊かな場所です。大きな都市ではありませんが、生活するには穏やかな環境で治安もよく、地域の人たちはとても親切で大学以外での交流もたくさんあります。私の大学の学生は5人に1人は留学の経験をしたことがある留学制度の充実した学校なので、派遣されたばかりの私たち留学生にも丁寧にオリエンテーションをしてくださり、わからないことは優しく対応してくれました。

ウィスコンシン大学の最大の魅力は、寮生活であるけれど、ホストファミリーも同時に紹介してくれることです。わからない土地でホストファミリーのような親身になってお世話してくれる人がいることはとても心強く、困ったことがあればできる限りのことをして助けてくれました。私のホストファミリーは若い家族で、一緒にご飯を作ったり、友達を集めてゲームをしたりと学校の合間にとっても楽しい時間を過ごしました。また、月に一度、学校側が留学生のためにパーティを計画してくれ、感謝祭やイースターなどアメリカの文化を体験することもできました。

語学学校では少人数で授業が行われ、試験によってクラス分けされます。どのクラスの先生も授業以外での質問や相談に快く受けてくださり、熱心な先生ばかりです。ウィスコンシン大学では、勉強をする環境はもちろんとその他の活動が多く用意されており、勉強とアクティビティが両立でき、充実した留学生活が送れると思います。

〈H17年度交換留学生 英米学科4年 江口 舞〉



Halifax, Nova Scotia, CANADA

Canada

セント・メアリーズ大学

Saint Mary's University



- 創 立：1802年
- 学 生 数：約8,800名
- 留学生数：約1,000名(約90カ国)
- 学 部：人文、商学、理学、教育

セントメアリーズ大学はノヴァスコシア州の州都ハリファックスに位置しています。ハリファックスはカナダ国内では初めてイギリス人が築いた街でもあり、港周辺に広がるダウンタウンには近代的ビルと歴史的建造物が混在し、趣き深い風景が広がっています。街中の小高い丘の上にある、軍事基地跡のシタデルから見下ろすハーバーフロントの景色は絶景です！セントメアリーズ大学はダウンタウンから15分ほど離れた所にあります。ハリファックスでは1番古く歴史ある大学で、メインビルディングは石造りの立派な建物で、この大学に通っていることを誇りに思わせてくれます。校内は緑がいっぱいで自然に包まれた落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができます。さらに、さまざまな国から留学生を受け入れていて、国際交流センターや TESL (語学学校) では毎週のようにイベントが設けられていて、たくさんの国の友達を作ることができます。冬の気候は-10度前後ですが、海からの風の影響で体感温度は実際の温度より低く感じられます。寒いですけど慣れますよ!! 留学ではたくさんの友達と最高の思い出が作れると思います♪

〈H17年度交換留学生 国際経済学科4年 城戸 千明〉

Come to Saint Mary's University in lovely Halifax Canada. Located in eastern Canada it is home to, and close to many interesting things, such as: Peggy's cove and Anne of Green Gable's. So if you want to learn English and meet many interesting people, come to Saint Mary's University.

〈Trevor Kennedy, Exchange student 2004〉

Saint Mary's University, Halifax - 'One University. One World. Yours.'

Saint Mary's University is the oldest university in the province of Nova Scotia, boasting over 200 years of excellence in education. Saint Mary's offers excellent English as a Second Language courses, designed to the specific needs of the individual students. The TESL Centre has enjoyed almost 10 years of existence on the Saint Mary's campus and even offers university-bridging programs which allows serious students to take actual university courses as they learn English! Halifax is a beautiful coastal city with a temperate climate. As it is on the sea, its summers are warm and its winters are cool, although the snow will be bound to fall in February! Popular tourist attractions are the Halifax Citadel, a reminder of the city's colonial past. Halifax has many wonderful parks as well, notable ones being Point Pleasant Park and the Central Garden which show their beauty throughout the year, particularly the autumn seasons when leaves change their colors. The young people of Halifax immensely enjoy the plentiful coffee shops throughout the city and the night-life of our small university city is also quite lively! We encourage you to study here as it will definitely be an unforgettable experience!"

〈Mark Crosby, Exchange student 2003〉

Saint Mary's University (SMU) is located in Halifax, Nova Scotia which is found on the east coast of Canada. About 2 hours east of Toronto by plane, Halifax is the capital city of Nova Scotia. With a population of fewer than 400,000 people Halifax is considered a small city by most standards. Even though Halifax is a small city, there are many things to do in Halifax and in the areas close to Halifax, as well as other Atlantic provinces. The climate in Nova Scotia is described as mild. There will be some snow in winter!

Saint Mary's University is located very close to the city

center and is close to entertainment, shopping areas, etc...
 With less than 9,000 students (part time/full time) on campus, class sizes are small and friendly. You will be able to make close friends among your classmates or roommates. Saint Mary's University was founded in 1802 and has a great history both academically and athletically. With students from over 90 different countries on campus, Saint Mary's offers a great cultural experience to every student. Students can choose from a wide range of courses to take at SMU. International students at SMU can study and improve English speaking abilities at the TESL Center on Campus. Students from all over the world are studying there, and it is a great place!
 SMU also has a great gym complex, football field, running track, hockey arena/ice-skating rink as well as an on-campus pub/bar where students can relax. International students can choose to live in one of two residences (both on campus) and there are 2 cafeterias as well.
 There is much to see and do in Halifax and at SMU, so please come to our nice city!

〈John Bennet, Exchange student 2004〉

relax. In the heart of the National Capital region, there's always a lot to do. Carleton mixes great academics with a beautiful campus, and its secluded location leads to very active student life. Ottawa is close to both Montreal and Toronto, and there is a lot of opportunity for both traveling and participating in outdoor activities like hiking, camping and skiing in the immediate area. We have a great community of international students here, as well, and it's very easy to make friends with all sorts of people.

〈Danny Gorny, Exchange student 2002〉

Our school just added few more buildings recently. We have good ESL program. If you go on an exchange at Carleton, you could join the Japanese TA which you could meet more people. Our school is much bigger than KGU. I am sure you will enjoy the time in Canada.

〈張綺玲, Exchange student 2005〉

カールトン大学はカナダの首都であるオタワにあります。オタワには多くの自然がありとても住みやすいところです。カナダは「移民で成り立っている国」と言われるだけあり、様々な人種の人々がいました。カナダ文化とともに、他の国の文化にも触れることができるので、文化に興味のある人に特におすすめです。また、オタワは首都なので、政治機関の建物が多くあり、カナダがどういった国であるかを学べたのでとても興味深かったです。

カールトン大学は留学生と一般の学生との壁がなく、同じ授業を受けることができました。また、大学の規模が熊本学園大学と比べてとても大きいので、より多くの人とも知り合えると思います。実際、私は色んな人と知り合い、素晴らしい友達を世界中に作ることができました。

私の留学中の目標は「英語力習得」のみだったけれど、実際にはもっと多くのものを得ることができました。英語力の習得はもちろんのこと、人種や他国の文化、考え方、そして人と協力して生活するという事です。この留学を通し、精神的にも勉学の面でも成長できたので、カールトンで貴重な体験ができ、良かったと思います。

〈H17年度交換留学生 国際経済学科3年 高山 奈採〉

Canada

カールトン大学
 Carleton University



- 創 立：1942年
- 学 生 数：約23,800名
- 留学生数：約2,500名(約150カ国)
- 学 部：行政学、経営学、英語学、社会学、
 国際ビジネス、人文科学、工学・デザイン

Nestled between the Ottawa River and the Rideau Canal, Carleton University's location just outside of downtown Ottawa makes it a great location when you just want to

U.K.

リバプールジョンモーズ大学

Liverpool John Moores University



- 創立：1825年
- 学生数：約24,000名
- 留学生数：約870名
- 学部：自然科学、工学、経営、ビジネス、法学、芸術・デザイン、言語、メディア、教育

Liverpool John Moores University is a thriving, vibrant university located at the heart of one of the most exciting cities in the UK and is a contemporary university in one of the most famous cities in the world.

The University took its name from Sir John Moores, the founder of the Littlewoods Empire (Littlewoods is a notorious department chain with many stores all over Britain). Sir John was a great believer in the creation of opportunity for all which embodies the ethos of LJMU in providing educational routes for people of all ages and from all backgrounds.

It's not just about the Beatles. Liverpool is a culturally diverse city which boasts a variety of attractions to cater for absolutely anyone's taste. It is the place to be right now - the city is thriving and there is a real buzz about the place. This is perhaps the most exciting time in the history of this unique city as Liverpool has been chosen as European Capital of Culture 2008 which means that major regeneration projects are working towards making

Liverpool become even more fun and exciting for all ages.

As well as the countless number of night time attractions (see <http://www.ljmu.ac.uk/CapitalofCulture/60559.htm>)

LJMU has its very own club and bar which is located inside the student union building. This is a great place for new students, especially exchange students, to meet others who normally would be on other campuses around the city and studying during the day.

And perhaps most importantly, we students at LJMU are lucky to have such a warm and friendly staff around to help us out whenever necessary.

I wish you good luck and hope that you enjoy your experience at my university.

For more information about Liverpool and LJMU, go to: <http://www.ljmu.ac.uk/>

〈Marika Opara, Exchange student 2006〉

リバプールジョンモーズ大学は、学部によってキャンパスが分かれています。私が通っていた John Foster Building というキャンパスの Language Course には世界各国からの多くの留学生が所属しており、国際色豊かな学部でした。よって世界各国の友人を作ることができます。この学部では、言語学、イギリスの文化、欧米間の関係、歴史、異文化コミュニケーション等を学ぶことができます。リバプールはビートルズが誕生した町で、至るところでビートルズの音楽が流れています。また、タイタニックも有名です。建物の大きさがヨーロッパ第1位、世界第2位と言われている大聖堂もあります。港町なので風が強く冬の寒さは厳しいですが、観光地が多くにぎやかで魅力的な町です。

〈H17年度交換留学生 英米学科5年 寶生 絵美〉



Campus Centre, Liverpool John Moores University

Australia

ラトロブ大学

La Trobe University



- 創 立：1964年
- 学 生 数：約26,500名
- 留学生数：約3,000名(約60カ国)
- 学 部：教育、健康科学、法学、経営、工学、自然科学、社会科学、人文科学

La Trobe University is a great institution located in the Australian city of Melbourne. Its friendly and multi-cultural atmosphere make it an enjoyable place to study at. Its main campus is located in Bundoora, about 30 minutes from the CBD, and is arranged around a central meeting area called the 'Agora'. The Agora is an area where students can relax with friends, grab a bite to eat or enjoy a delicious cappuccino. The staff at La Trobe are extremely helpful and are always willing to assist in any way they can.

Melbourne is a sprawling city that caters to a wide selection of interests. Whether your interests are sport, art, music or shopping Melbourne has something for anyone. Melbourne is a very friendly city, populated by people from all over the globe. This multi-cultural atmosphere is most evident in the wide selection of restaurants, cafes and eateries that are available.

〈Leon Oldfield, Exchange student 2005〉

La Trobe University is located in Melbourne, Australia's second largest city. The main campus is situated in spacious parkland and includes a Wildlife Reserve and it also houses the main research and teaching faculties of the University, including the Research and Development Park, a world

renowned library, multi-media facilities and a hospital including student medical services.

The University prides itself on being an internationally recognized leader in the provision of high quality education and training underpinned by a strong research profile. The key objectives of the University are to be an internationally acknowledged centre for teaching, training, scholarship and research and to prepare students for the various needs and challenges of work and society.

The University has a particularly strong commitment to internationalisation and it seeks not only to attract students and staff from all around the world but also to provide opportunities for local students and staff to gain international experience through a scheme of exchange programs.

〈Mark Paterson, Exchange student 2004〉

メルボルンは、シドニーやケアンズとは雰囲気が違い、古い建築物が多く、また緑に囲まれているのびのびとゆっくり生活することができる街です。世界的に有名なグレートオーシャンロードやとても小さなペンギン、フェアリーペンギンが見られるフィリップ島、ワインが製造されているワイナリーなど、観光地もいろいろあります。

ラトロブ大学はとても広く自然の多い大学で、キャンパス内に羊やアヒルがいたり、登下校中にカンガルーと会えたりと、日本ではできない経験ができました。先生方は学生のことをちゃんと考えてくださっていてとてもフレンドリーなので、すべての授業は楽しく、そして世界中にたくさん友達もできました。

〈H17年度交換留学生 国際経済学科4年 上平 真季〉



Victoria, Australia

New Zealand

ユニテック

Unitec New Zealand



- 創 立：1976年
- 学 生 数：約66,000名
- 留学生数：約2,000名
- 学 部：建築学、人文科学、英語、経営学、デザイン、環境工学、国際コミュニケーション

Located on the edge of Auckland city Unitec is close to the main shopping centres but far enough away to be spacious and green. Classrooms are well equipped with technology that makes study and teaching easy and fun. New Zealand is a beautiful place, with cultural and geological aspects unique to New Zealand. New Zealand is an experience that people don't soon forget.

(Chris Eckford, Exchange student 2005)

UNITEC ——— 芝生の広がる広大な敷地を持ち、ニュージーランドの学生のほか、多くの外国人が所属しています。校舎も新しく、図書館、カフェ、食堂、ホール、医療室、体育館、ジム、学生寮、留学生会館などの設備も充実しています。

留学生の勉強の場として心強いのが図書館です。図書館内にある Language Learning Centre は、英語やその他の言語の様々な教材が置いてあります。中でも一番ためになるのは、ネイティブの英語教師との面談です。紙に必要な事項を記入して簡単な予約をするだけで、無料でできます。わからないことを質問してもいいし、会話やリスニングの練習、アドバイスをもらうことができます。

カフェ・食堂は5つほどあり、中華料理、パイ、フライド

ポテト、ピザ、マフィン、サンドイッチ、ラーメンなどがおいてあります。

ジムでは球技・エクササイズ施設があります。また毎日様々なクラスが開かれ、ヨガやキックボクシングなどを安く体験することができます。

学生寮は学校の敷地内と、すぐ隣にあり、2人部屋・3人部屋・5人部屋などがあります。

学校には日本人のアドバイザーがいて、相談ごとなどを聞いてくれて力になってもらえます。また、留学生に対してのアドバイスが得られます。

UNITEC の語学学校には、中国・韓国・日本からの留学生のほか、中東・アフリカ・南米・太平洋上の島国からなどの移民も授業に参加しています。英語だけでなく様々な知識や経験をつむことができます。

Mt. Albert ——— 大学のある地域はマウント・アルバートと呼ばれ、近くには映画館も併設している大きなショッピングセンターや、ビーチ、公園、動物園、など色々あり、週末にちょっと出かけたり、放課後に買い物に行くこともできます。

Auckland ——— オークランドはニュージーランド最大の都市ですが、街の規模としては熊本より大きく、福岡より小さいくらいです。様々な文化の入り混じった町で、飲食店でたとえると、西洋料理はもちろん、日本料理、中華料理、韓国料理、タイ料理、ベトナム料理、トルコ料理などのレストランがたくさんあります。ニュージーランドの原住民であるマオリ族も多くいます。博物館や美術館でもマオリ族に関する展示が多くあるだけでなく、日常の生活にもマオリの習慣や言葉があふれています。

(H17年度交換留学生 東アジア学科5年 生田 絃子)



Auckland, New Zealand

Korea

大田大学校

Daejeon University



- 創 立：1980年
- 学 生 数：約11,000名
- 留学生数：約60名
- 学 部：文科、法経、理科、工科、韓医

大田広域市は、韓国主要6都市の1つであり、首都ソウルに次ぐ行政都市です。鉄道網など交通機関も発達していて、ソウルや釜山まで鉄道で約1時間半という恵まれた地域に位置しています。

大田広域市の東部に位置する大田大学校は、1980年に創立された総合大学です。学部数は、約50学部ほどあり、大きく5つの大学（文科大学、法経大学、理科大学、工科大学、韓医大学）に分かれています。その大学の下に50の学科があります。日本の大学には、みられない体系なので、「大学のなかに、大学がある？」といった混乱を招いてしまうかもしれません。日本の大学よりも学部数が多いので、「大学」という言葉が使われていますが、実際は「学部」と同じ機能をしています。

大田大学校には、ユニークな学科がたくさんあります。その中でも、漢方について勉強する「韓医学科」はトップクラスの学科です。ほかに「警護学科」、「舞踊学科」、「食品栄養学科」、韓国らしい「軍事学科」など、日本にはみられない、とても個性の強い学科がたくさんあります。

大田大学校での授業は、自分の学科だけではなく色々な学科の授業を受けることができるので、言葉を学ぶ留学で言葉以外にも韓国でしか、大田大学校でしか学べないことをたくさん学ぶことができます。

〈平成17年度交換留学生 東アジア学科4年 宮本 涼子〉

自然の中の情報化大学と言って八つの単科大学に45個の学科3つの学部及び6つの専攻があります。韓国中部圏の第一の大学を目指し、世界に道を広げようと努力しています。最近は学生の便利のために尽力しています。学校の近くに地下鉄の駅ができ、大田駅からも5分しかかかりません。またソウルなど近くの都会に行く通学バスもできています。

また学校のなかにコンビニが4つあり、ヘワ文化館と言う建物はサークルルームやカフェがあって学生に休息の場を提供しています。また大田大学校の自慢である図書館地下にはコンビニやパソコンもあり、ゆっくり休める休息の場、また今年新しくできたアイスホールでは教育から音楽、映画鑑賞ができ、誰でも自由に利用ができます。また漢医学の特性を活かして学校内の保健所では針治療や薬は無料です。これからは学生のための施設がどんどんできる予定です。学生を大事に思う大田大学校はこれからももっと成長するでしょう。

〈平成18年度受入交換留学生 金 鎮 植〉

大田大学校のキャンパスはそんなに広くありません。そして歴史もあまり長くはないですが、何より学生たちに便利な施設が充実しています。たとえば図書館には学習空間に限らず休息のための空間もよく揃っているし、コンビニも校内に50メートル間隔であるほどです。またそれぞれの学校建物にはネットワーク施設がよく整備されています。そして多様なサークルがあって希望サークルでの活動も可能です。私はギターサークルに加入しました。ギターサークルには1年に2回の定期公演と色々小さな公演をする機会があり、公演の他にも体育大会、旅行などの多くの活動があるので退屈しない大学生活を楽しむことができました。もちろん学科も多様です。特に学科ごとにそれぞれの部屋があって休息はもちろん多様なコミュニケーションが可能なので、サークルに参加せずとも友達と付き合う機会がたくさんあります。そして総合大学であるため、希望によって関心分野の講義を受けることも複数専攻も可能です。

大田大学は普通の総合大学です。しかし他大学と比べて少し学生にとって便宜施設がより揃っていて、学生活動がより活発です。学校の規模はあまり大きくも小さくもないです。歴史も長くもないです。しかし望めばなんでもできる学校だということを強調したいです。

〈平成18年度受入交換留学生 金 容 宇〉

China

深圳大学 Shenzhen University



- 創 立：1983年
- 学 生 数：約20,000名
- 留学生数：約570名
- 学 部：文学、経済、教育、科学、建築、情報科学、法学、芸術、ゴルフ

深圳大学は、国务院に批准された深圳市人民政府に帰属する全日制的総合大学である。1983年創立。キャンパスは深圳市南山区に位置し、学内にもライチ畑のある緑多い美しい環境である。キャンパス面積は140万平方メートル。

深圳大学は経済特別区内に立地する大学として教育部（日本の文部科学省）が非常に重視している大学である。1995年、国家評価であるの学部教育レベルの評価水準に合格し、1996年に国务院学位委員会を経て修士学位授与権授与が認可された。2006年1月には博士課程学位授与権も認可された。大学には14の学部があり、文学学科、理学科、経済学科、管理学科、法律学科、教育学科、教育学科、コンピュータ学科など54の学科がある。

深圳大学には全国から高学歴、豊かな教学経験、国際感覚を身につけた優秀な教員が配置されている。大学には重点実験室が7室ある。6階建ての図書館の蔵書数は316万冊。深圳大学のネットワーク端末は、30,000個で、99%の教室のマルチメディア化を実現している。

深圳大学は、このような有利な地理条件を十分に活用し積極的に外国との交流を展開している。イギリス、ニュージーランド、日本、韓国の大学と姉妹提携を締結し、毎年相互に教員と学生を交換している。世界各国の40大学から920名の留学生が学んでいる。深圳大学は優秀な学生の育成を大きな目標として前進しているのである。

〈平成18年度受入交換留学生 賈 嘉〉

深圳大学は、中国の大学では4番目に綺麗な大学です。大学中に美しい湖があります。湖の隣は留学生寮があります。留学生寮からの眺めが素敵です。

深圳大学は、勉強する為の環境がいいし、先生方も熱心に教えているし、学生達も真面目で、勉強したり色々な活動に参加したりします。私達の大学に留学すれば、友達がたくさんできるはずですよ。更に、深圳では“普通語”と“広東語”両方使っています。広東語に興味を持っていれば、広東語も勉強することができます。

深圳市ではいろいろな有名な観光地があります。留学生に対して、色々な活動もあります。留学生は楽しんで暮らすことができます(^^)

〈平成18年度受入交換留学生 張 小 燕〉

週に一度、中国人の方とお話できる会が留学生楼で行われるので便利です。

大学周辺には日本の賞品を扱うセブンイレブン、スーパー、味千ラーメン等が多いので便利です。バスで40分前後の所にはジャスコもあります。大学周辺の外国人用ホテルでは、刺身や日本料理も食べることができます。両替可能な銀行も近くにあるので助かります。大学内にATM、郵便局、スーパー等あります。また、留学生楼（宿舎）付近に3ヶ所学食があるので、食事には困りません。

熊本と気候が似ており、夏は蒸し暑いです。冬は少し寒いですが、暖房器具もコートも安価で購入可能です。

〈平成17年度交換留学生 東アジア学科5年 安武 美奈〉

China

中国人民大学 Renmin University of China



- 創 立：1937年
- 学 生 数：約19,000名
- 留学生数：約1,430名
- 学 部：社会科学、人文科学、経済、管理科学 他

私は2005年3月～2006年1月まで、中国人民大学に留学していました。中国人民大学は、交流協定校の中でも交通の便が一番良いと思います。

授業は、知識を中心に会話の授業ももちろんあり、近くにある大学とも交流がありました。寮も最初は困惑しましたが、住めば都です。日本人留学生も、他大学に比べそんなに多くはないですが、他大学の情報や就職の情報などもありました。

大学周辺も充実しており、デパートや食事処、色々あります。バスで10分移動すれば、中国独特の大きい市場。小物から家具など色々あり、楽しく買い物する以上に、会話の練習にもなり、とても便利な場所です。お勧めです。

授業だけの大学ならどこでも良いと思いますが、中国人民大学では、クラス単位の行動も多く、クラスでの会食なども結構あります。先生とクラスメートとの一緒に行動で、国際交流もでき、異文化も学べます。私が楽しく留学を過ごせたのは、中国人民大学のおかげでもあります。

〈平成17年度交換留学生 東アジア学科卒業 岩岡憲太郎〉

訳」「作文」などがあり、全て午後4時から行われます。先生方は教え方も丁寧でわかりやすく、授業は楽しいです。また北外はHSKの受験会場ですし、日本語を勉強している学生も多いので相互学習の相手が見つけれやすく、中国語を勉強する環境は整っていると思います。

北外で自慢できることは、学生食堂の料理が種類が豊富で美味しいことです。他の大学から来ている人も、北外の学生食堂は美味しい！と絶賛しています。また大学の周囲にもたくさん食べ物屋があり、学生食堂に飽きても食事に困ることはありません。日用品も、近くにスーパーやコンビニがあるので北外での留学生生活はとても快適であると言えます。

〈平成18年度交換留学生 東アジア学科3年 松島 圭〉

China

北京外国語大学

Beijing Foreign Studies University



- 創立：1941年
- 学生数：約7,000名
- 留学生数：約1,000名
- 学部：英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、日本語、東ヨーロッパ言語 他

私が留学先に選んだ北京外国語大学（通称「北外」）は、市内から割りと近く、何処へ出かけるにも便利なところに位置しています。特徴としては、ほかの大学が午前中につめて授業が行われるのに対して、北外は毎日時間割が変わり、午後から授業が行われたり選択科目が多かったりすることが挙げられます。単調な生活が嫌な人にはとても良いのではないかと思います。選択授業は映画を見て中国語を勉強する「影視漢語」や北京の歴史や風俗について学ぶ「北京民俗」や、「翻

China

北京語言大学

Beijing Language and Culture University



- 創立：1962年
- 学生数：約10,000名
- 留学生数：約5,000名
- 学部：中国語、人文科学、情報科学 他

私が一年間留学していた北京語言大学は、広い敷地を有し、その敷地内を様々な国籍の学生達が歩き回っている大変不思議な大学です。中国人学生よりも外国の学生の方が多く見えることから、他大学の中国人学生達は語言大学を指して『小連合国』と呼んでいた程です。大学内には中国料理は勿論、日本料理屋、韓国料理屋、イスラム料理屋、果てはバーまで存在するところも小連合国と呼ばれる所でしょうか。大学の傍には飲食店も豊富で、偶然隣に座った人と意気投合して遊び友達なることも多々あり、積極的に動き回れば中国語以外の言語を覚えるチャンスも生まれて来ます。

中国は勿論、それ以外の国の人々とも纏めて交流をしたいと考えている方、語言大学に留学してみてもどうでしょうか？

〈平成17年度交換留学生 東アジア学科卒業 山本 佳奈〉

China

北京第二外国語学院

Beijing International Studies University



- 創 立：1964年
- 学 生 数：約10,000名
- 留学生数：約600名
- 学 部：中国文学、新聞学、英語、日本語、金融学、マーケティング、旅行管理 他

北京第二外国語学院は周恩来総理の指示によって1964年に創立された大学です。外国語や文化などを主な課題として研究し、またホテルと旅行管理のコースを特色としています。その他に、中国文学、経営学、経済学、法学等の学科も設置して、時代をリードし得る高度な国際規格の人材育成を推し進めています。

二外の主な研究・教育部門は、英語学部、日本語学部、ロシア語学部、ドイツ語学部、フランス語学部、スペイン語学部等の言語学部と、旅行管理・国際貿易学部、国際メディア学部、法律学部、国際コミュニケーション学部など、合計18の学部があります。

現在在学している学生数は約8,000人です。その中で中国人学生の他に、毎年アメリカ、オーストラリア、日本、韓国などの国からの留学生もいます。教員は約600人おり、200人が教授です。そして毎年たくさんの先生方が外国で研究するチャンスもあります。もちろん外国人教員も約60人います。

学内には三つの学生食堂と一つの専門レストランがあります。日本、韓国、インド風の料理が味わえます。その他に、4階建ての図書館が北門の近くにあって、たくさんの本を所蔵しています。暇つぶしに最高の場所です。大学には学生寮があって、皆が校内に住めるので、他の学生と友達になりやすいです。

二外は朝陽区にあって、都心から少し離れていますが、南門の近くに地下鉄の駅があるので、とても便利になりました。二外は中国の他の大学に比べればそんなに大きくありませんが、緑があちこちにあり、静かで穏やかな雰囲気なので、勉強に最も理想的な場です。

〈平成18年度受入交換留学生 高峰〉

北京第二外国語学院は市街地にあり、静かでとてもいいところです。

校門を出れば小さなレストランがたくさん並んでおり、大きなスーパーもあるので半年の間一度も生活には困りませんでした。寮は校舎の隣にあるので朝が苦手な人も走れば教室まで2分で着きます。どこの国も危険はありますが、校内、宿舎内は郊外に比べても大変安全です。私はトイレ、バスルーム、エアコン、調理場と設備の整った部屋で過ごしています。料理ができる人にとってはとても過ごしやすいと思います。

もちろんインターネット（ADSL）の設備もあるので世界の出来事などいつでも見ることができます。

この学校にはグラウンド、体育館、テニスコートや売店、たくさんの学食もあり、そしてたくさんの外国人が中国語を学びにきています。いろんな国の言語や文化、その国の人や日本に対する概念など、この学校では中国語だけでなくいろいろなものを学ぶことができます。

日本では経験できないことがこっちでできるので毎日が新鮮で充実しています。

〈平成18年度交換留学生 東アジア学科3年 北島 大介〉

China

広西師範大学

Guangxi Normal University



- 創 立：1932年
- 学 生 数：約16,000名
- 留学生数：約600名
- 学 部：文学、歴史学、経済学、教育学、管理学、芸術 他

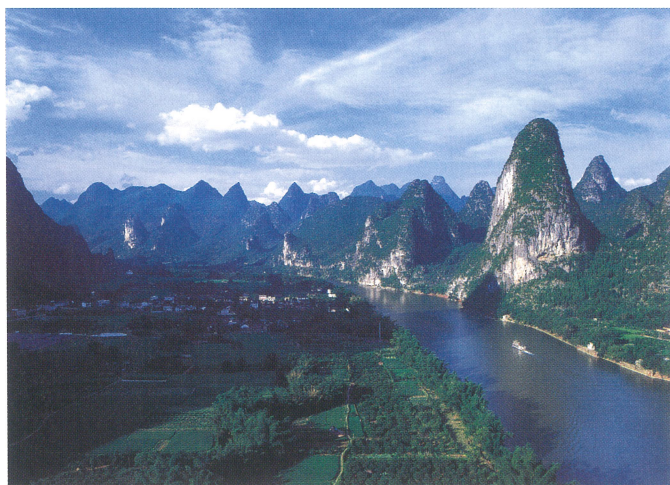
“桂林の景色は天下一である”と言われるよう、桂林の街は山水画さながらのきれいな自然を持ち合わせています。自然に囲まれた桂林には、1年中を通し多くの旅行者が訪れます。10月になると桂林の花であるキンモクセイの香りが広がり気

持ちを安らげてくれます。北京や上海の大都市に比べ日本人が少なく、現地の人は日本人と知ると積極的に話し掛けてく持ちを安らげてくれます。北京や上海の大都市に比べ日本人が少なく、現地の人は日本人と知ると積極的に話し掛けてくれ、初対面でも良心的に接してくれます。友達と遊びに行く場所は山登りだったり、イチゴ摘みだったりと自然を満喫した遊びができます。広西師範大学はベトナムや韓国からの留学生が多く、1クラスが少人数の為、先生や生徒がとても仲良く、毎日よい雰囲気の中授業を受けることができました。時々、クラスの皆と先生とで街や公園に散歩に行ったり、映画を見たり、また先生が麻雀を教えてくれたりなどもしました。いろいろな体験ができた、とても温かい留学でした。

〈平成17年度交換留学生 東アジア学科4年 吉野 富士〉

山紫水明で国内外に知られている桂林は、典型的なカルスト地形で、美しい水が奇峰・奇岩に取り巻き、まるで山水画の世界のようである。金木犀が多いことから「桂林」と名づけられ、毎年10月ごろに花が一斉に咲き乱れて、甘い香りが至る所に漂っている。年に観光客が千万人を超え、中国でもっとも人気の高い観光地である。亜熱帯地区に位置する桂林は、一年の四季を通じて温暖で、飲食・買物・観光のサービスも十分揃えている。市内には繁華街や「両江四湖」がまるで大きな公園のようであるが、どこに行っても観光と買物ができる。市内人口は65万であり、少数民族は合わせて12民族がある。言葉は方言があるが、普通語は共通である。

〈平成18年度受入交換留学生 張 軍〉



中国・桂林楊堤

Thailand

チュラロンコーン大学 Chulalongkorn University



- 創 立：1917年
- 学 生 数：約32,500名
- 学 部：経済学、政治学、文学、医学、薬学、法学
教育学、心理学

Chulalongkorn University is the first university in Thailand. It was established on March 26, 1917. It is located in the center of Bangkok, the capital city of Thailand. Chulalongkorn University now has eighteen faculties and a number of schools, institutes and projects, which are engaging in teaching and other related activities. Its approximately 2,950 academic staff members offer 30 international programs, 344 major subjects in four main areas of study, namely, health sciences, science and technology, the social sciences, and the humanities, to a student population of approximately 27,236. Apart from the educational circle, the university has served the country well in many other respects, particularly by contributing to the latter's modernization and development efforts. Most notably, the emphasis on the quality of its scholarship has made itself felt through the contributions of its alumni, who, for many decades, have established a strong national presence in both the public and private sectors.

〈Glawgitigul Phrudtipan, Exchange student 2003〉

チュラロンコーン大学はタイの首都のバンコクにあります。バンコクは首都なので、政治・経済・教育・芸術の中心となっています。バンコクは発展の中心地ですが昔のままのお寺やタイ風の建物がたくさん残っています。バンコクは現代的な文化と伝統的な文化が混じりあっているところと言えます。チュラロンコーン大学はタイの国王が創立された、タイ

の初めての大学です。現在のチュラロンコーン大学は18学部132学科で、毎年学士課程と博士課程と修士課程を取る卒業生は、それぞれ約2万人、1万人、1,500人です。バンコクの中心に位置するので、地下鉄でも電車でも、交通の便が良いです。大学の生活は、課外活動も豊富で、色々なサークルがあります。チュラロンコーン大学に留学しませんか？

〈平成18年度受入交換留学生
パーリーナー ウンスッカセーム〉

Vietnam

ベトナム国家大学ハノイ校

Vietnam National University, Hanoi



- 創立：1993年
- 学生数：約48,500名
- 留学生数：約320名(約30カ国)
- 学部：人文科学、工学、経済学、法学、外国語学、教育学

ベトナム国家大学の前身となる大学は1906年に創立され、ベトナムで初めてできた大学です。現在は、社会人文大学、自然科学大学、情報技術大学と外国語大学の4つの付属大学、および、法律学部、師範学部、経済学部の三つの学部から構成されます。各付属大学では、図書館、研究室が設置し、さらに、情報研究センター、ベトナム文化科学研究センターがあり、学習と研究において良い環境があります。国家大学は3カ所に分かれています。本館と付属外国語大学、情報技術大学 研究センターはハノイ市内の北部に位置します。ハノイ中心部からバスで30分ぐらい離れたところで、緑豊かなキャンパスです。

付属外国語大学は1967年に設立され、ベトナム北部の言語学教育の中で、一番歴史がある大学です。日本語学科は1996

年に設立され、比較的新しいという印象を与えるかもしれませんが、設立10年間にして、現在、日本語教育の中で上位に立っています。本学科の学生数は240人で他の学部ほど多くはないですが、年々増加しています。日本語を学習している学生は大学の図書館のほか、LL room と学科の図書館も利用できます。

ベトナム国家大学ハノイ校は諸国の大学との協力プログラムがあり、その中に、熊本学園大学との交換留学プログラムがあります。現在、本大学では、中国、韓国、ロシア、フランス、オーストラリアの外国人留学生在が勉強しています。学習だけでなく、文化交流も盛んです。日本語を勉強する上で私は日本人学生の友達といろいろな交流活動をしたと思います。熊本学園大の学生たちもベトナム国家大学ハノイ校に留学して、ベトナムのいろいろなことを体験して、いろいろな交流をしませんか。

〈平成18年度受入交換留学生 ファム チュック クイン〉

ベトナム国家大学外国語大学は、生徒数の多い活気ある大学です。外国語学部ということで女子生徒がとても多いのですが、女性の日には男子学生が女子学生に料理を作るというコンテストも開かれています。学内には商店もいくつかあり、学生たちはそこでお菓子を食べながらおしゃべりをしたり毎日を楽しく過ごす様子が伺えます。フランス語学科の棟は、フランス調の造りでとても美しいため、そこには恋人同士がよく集まっています。「夜はとてもロマンチック」と言って、皆が好きな場所のようです。週末には学校の門付近に露店が出ます。皆はそこで楽しく買い物をしたりします。学園祭など、大きい催しにも力を注いでいます。「いつこんなに準備したんだろう」と感心するほどです。日本語学科のお祭りでは、1年生が主に企画・準備をするようですが、当日は他大学の生徒や他の学年の生徒も来たりしてにぎわいます。歌ったり踊ったり、皆が楽しめるものでした。

ハノイは、水と緑にかこまれた街です。湖が多く、そこは人々の憩いの場になっています。暑いときにはあまり人はいないのですが、夜には散歩する人、エアロビクスをする人、カップルで賑わいます。多くの家は庭を持ちません。そのため、人々は公園へ集まり、自然を満喫し、家族や友人や恋人と交流を深めます。緑が多いのもハノイの良さです。ハノイは首都ですが、街は自然を忘れていません。おかげで夏には心地よい涼しさを与えてくれます。日差しが強いので、陰は地面に濃くうつります。それが夏のハノイらしさとも言えるでしょう。木陰をバイクでくぐるのがとても気持ちいいです。また、ベトナムにはカフェが多いです。カフェといっても路上の即席のお茶所といった感じですが、そこには平日の昼間でも男性が多く集まります。女性は、露店を出したり天秤棒を担いで商売。ベトナムの女性は働き者です。ハノイはとにかく活気に満ちたエネルギーな街です。

〈平成18年度交換留学生 福祉環境学科4年 高木あゆみ〉

留学生出身国の英語の違い

一口に「英語」と言っても、国が違えばスペルや、文法、単語も違うことがありますよね。そこで、本学にいる英語圏からの交換留学生に表現の違いを聞いてみました。

表現の違い				
Words	アメリカ	カナダ	イギリス	ニュージーランド
挨拶	Hello			Kia ora <small>オーストラリアでは G'day mate! って言いますね!</small>
市街地	downtown		city centre	the city
エレベーター	elevator		lift	
1 階	first floor		ground floor <small>約束をする時にはご確認を!</small>	
2 階	second floor		first floor	
列	line		queue	line / queue
郵便	mail		post	
お手洗い	bath room (家)	rest room (外)	toilet / loo (rest room)	toilet <small>TVの影響で、最近ではイギリスでも "rest room" を使ったりするそうです。</small>
映画	movie, cinema		film, cinema	movie, cinema
手荷物	baggage	luggage / baggage	luggage	
携帯電話	cell (cellular) phone		mobile (phone)	cell phone / mobile (phone)
ごみ箱	trash, garbage	garbage	rubbish <small>イギリスで football といえばサッカー、アメリカではアメリカン・フットボール。日本人の「フットボール」のイメージはアメリカンですよ。</small>	
サッカー	soccer		footbal	soccer
クッキー	cookie		biscuit	
歩道・舗道	sidewalk		foot path pavement	

スペルの違い

中央	center	center / centre	center
点検／小切手	check		cheque
プログラム	program	program / programme	programme
バーベキュー	barbecue		barbeque
文明	civilization	civilization / civilisation	civilisation

火の国との約束

深圳大学 副教授 蔡元慶

【2005年9月から半年間、交換教員として受入】

「ただいま。」

2005年9月5日の夜、車が熊本インターを出ようという時、私の心がそう言いました。真夜中の街、その年で最も強い台風がまもなくやってくるせいか往来には人影も少なく、私にとっての熊本での二度目の暮らしは、この特別な歓迎セレモニーの中で始まりました。

東京、京都、大阪などの大都市と比べて熊本の名は中国ではあまり良く知られていません。人気の「味千拉麺」の看板に書かれている「本番熊本ラーメン」の文字を九州真中にある都市の名前と結び付き考える人も多くいません。しかし、熊本市は私にとってとても好きな町のひとつです。町は県の中心だけれども大都市の喧騒を感じさせない静かな町であり、ゆったりとした生活ができます。一方、生活面では大都市に劣らず便利です。また、美しい自然の景色に囲まれる町は、大都市の人々に羨まれ、多くの美味しい食べ物の産地としてよく知られています。「火の国」という名が表すのは気候の特徴だけではなく、人々の熱い心でもあります。

私は熊本市とは深い縁があります。1993年から2001年まで、8年間をかけた留學生活の半分はここ熊本で過ごしました。この肥後の地で、私の日本に対する最初の印象が生まれ、初めて普段の日本人の生活を身近に感じました。ここを離れてから広島でも4年間を過ごしましたが、やっぱり熊本に対する感情は深いものでした。今回、再びこの町に帰りなんとも言えない親しみを感じました。誰かに案内される必要もなく、町を歩き回ると、目に映るのはほとんど変わっていない熟知の景色、熟知の建物であり、耳に入るのは依然として親しい熊本弁でした。

交換教員として熊本学園大学にやって来るのには、無論、研究や国際交流などの使命があります。しかし、私にはそのほかにもう一つの理由があります。それは熊本に約束があるのです。思えば2001年の春、8年間の留學生活を終え、中国の深 大学に赴任する前、修士時代の仲間たちが熊本で私の送別会を開きました。わざわざ日本全国から熊本に集まって来てくれました。皆さんに私は、「また熊本で会えると信じています。」と約束しました。そして送別会の翌日、坂本教授のオフィスを訪ね、「何時か貴校の交換教員として来ます。」と現坂本学長に約束をしました。その後の数日間、昔いろいろとお世話になった先生や友人などにも別れ話と共に同じ約束を言

いました。そのほか、私の最大の希望はいつの日かもう一度この火の国で暮らしたいことです。あれから4年半、はやくもその約束を果たすことができ本当に嬉しい思いで一杯です。

忙しい留學時代とは異なり、今回の留學生活には時間の余裕があり、再びこの町をゆっくり見ることができます。阿蘇の火山、天草の夕焼けなどはもちろん、普通の道や建物もそれなりの魅力があると思います。深秋、学園大学が銀杏の葉で黄色に染められた時、私の一番好きなことといえば、学校をゆっくりと散歩することです。また、週末になったら懐かしい場所を訪れ、古い友人と再会することも楽しいことでした。

半年間の交換教員としての生活は、いつの間にか終わりました。振り返ると私の収穫は贅沢だと言っても過言ではありません。昔の恩師である荒井勝彦先生、富樫貞夫先生等にお会いでき、多くの新しい友人もできました。また、研究も順調に進み、資料収集の目的も達成しました。それ故、このチャンスを与えてくださった熊本学園大学と深圳大学に感謝し、半年間お世話になった坂本学長、北古賀勝幸理事長、中野裕治国際交流委員長、佐藤勇治前委員長、さらに熊本学園大学国際交流センターの皆さんに厚くお礼を申し上げたいと思います。私は今後とも日中友好、両校交流のために努力し、いつかまた熊本に帰ってくると約束します。

「白川、熊本城、水前寺公園……」、名曲「北国の春」の替え歌で私が創作したこの歌詞は、そのメロディーが流れる度に、自然に頭に浮かんでくるのです。

「白川、熊本城、水前寺公園……」。



鹿児島にて（熊本学園大学教員組合旅行）

보면, 느낄 수 있는 나라, 일본

지난 일 년 간 구마모토학원대학에 교환교수로 체류하면서 일본에 대한 이해를 넓히고 아름다운 추억을 가질 수 있었음에 감사한다. 가족과 함께 지내는 행복 속에 부분적이거나 일본의 사회현상이나 문화를 이해하면서 안목도 키워 나름대로 국제화시대에 동참한다는 자부심도 갖게 되었다.

내가 체류 중 무엇보다 부러웠던 점은 농업의 안정을 통해 먹을 것이 풍부하고 안전했다는 점과 80 대 노인들의 왕성한 사회활동, 그리고 누구나 질서를 잘 지키며 보여준 예의바른 동등생활의 모습이었다.

관습보다 실용 중시

우리가족은 매주 일요일마다 구마모토에 있는 한인교회를 다녔다. 80 대 중반의 장로님과 집사님들의 경제활동과 봉사활동을 보고 나도 저 나이에 저런 활동을 할 수 있을까 하는 의문이 들었으며, 좀 우스운 얘기지만 구마모토학원대학 이사장님의 주랑을 보고 나 자신의 체력관리에 좀 더 신경을 써야겠다는 생각이 들었다.

그리고 신입교수 소개 자리에 초대되어 가보니, 백발이 성성한 할아버지가 신입교수로 소개되어 좀처럼 이해가 되지 않았다. 한국에서는 동네 노인정이나 양로원에 가야할 분이 왜 학교에 왔지 하며 궁금했었다. 하지만, “ 능력과 필요에 따라 교수를 초빙하여 훌륭히 역할을 수행하는 것이 우선일 뿐, 나이는 이차적인 것 ” 이라는 설명을 듣고 일본의 실용적·합리적 사고에 부러움을 느꼈다. 이런 것이야말로 경쟁력의 원천이라고 생각이 들었다.

玉泉院 퀴즈

집에서 가까운 거리에 “ 옥천원 ” 이라는 건물이 있다. 어느날 집사람과 딸아이에게 옥천원이 뭘 하는 곳 일까 하고 물었더니, 술집·음식점·여관·목욕탕·종교단체 중 하나일 것이라고 답했다. 아마도 주택가와 인접해 있기 때문에 이런 답을 한 것이리라. 하지만, 내가 웃으면서 장례식장이라고 알려주자, 이 뜻밖의 답을 장난으로 여긴 집사람과 딸이 다음날 그곳에 가서 직접 확인해 보고는 한참 웃은 일이 있다.

묘가 많은 우리나라의 산과 비교해 보면, 일본의 산과 들은 너무나 깨끗했다. 매장문화와 화장문화의 장례 방법에서 온 차이인 것이다. 이를 계기로 우리 가족도 한국에 돌아온 후 납골묘를 준비했다. 이제 우리나라도 화장률이 60%에 가깝다고 한다. 우리의 후손들을 위해서는 우리나라의 매장문화도 바뀌어야 할 것이다.

すみません과 失禮します (미안합니다 혹은 실례합니다)

나는 일본의 가정 및 학교에서 줄서기를 가르치고, 정해진 구역에만 주차해 사회 및 개인에게 피해를 주지 않으려는 생활문화를 높이 평가한다. 앞에 나서지 않고, 남보다 뒤지 않으려는 성향도 이와 같은 문화와 맥을 같이 한다고 본다. 상대방을 조금이라도 불편하게 했으면 “ 미안합니다 ” 혹은 “ 실례했습니다 ” 등의 말이 입에 붙어 저절로 나오는 점을 장점으로 여긴다.

하지만 내가 장점만을 본 것은 아니다. 예를 들어 일본에서는 부모가 자식의 집에 와도 자식의 집에서 잠을 자지 않고 대부분 호텔이나 여관 등에서 잠을 잔다고 한다. 이러한 것은 한국에선 어른을 잘못 모시는 자식으로 손가락질 받을 수 있다. 정(情)과 화합(和合)의 문화는 우리나라가 앞선 것 같다. 사람 사는 세상에서는 함께 부대끼면서 소주잔이라도 기울이며 인생의 희노애락을 주고받는 대화가 필요하고 중요하다.

헌신적인 선생님

한국에는 “ 스승의 그림자도 밟지 말라 ” 는 말이 있다. 선생님은 마땅히 존경받을 인물이기 때문이다. 훌륭한 선생님도 많지만 한국의 일부 선생님들은 정치꾼인지 투쟁가인지 정말 헛갈리는 선생님도 있다.

딸아이가 다녔던 오비야마 중학교와 구로카미 초등학교에서 선생님들이 성심성의껏 지도하는 모습을 보니 아직까지 일본의 선생님에게는 권위가 있고 헌신적인 책임감이 있는 것 같다. 실제로 그분들의 사명감과 책임감은 남다른 점이 있었다. 담임선생님과 학부모간의 서신 교환으로 학생을 지도하고, 학부모회는 교권을 존중하면서 학교의 행사를 도와주고 협조하는 모습이 너무 보기 좋았다. 학부모들도 평등하게 일을 분담해, 학부모 누구든지 한 분야를 맡아 봉사하는 모습을 보고 역시 일본은 선진국이라는 생각이 들었다. 십 년 전 미국에서 보았던 모습을 일본에서도 보고 있다고 생각했다. 특히 초·중·고등학교에서의 부활동이 예술과 체육 강국의 기반이 되고, 학생 개인적으로는 취미 생활로 연결할 수 있으니 정서함양에도 도움이 된다고 생각한다. 지금까지 한국은 입시와 관련된 교육정책으로 혼란스런 모습이 자주 보였다. 교육을 통한 성숙된 사회가 우리의 앞날을 보장해준다는 새삼스런 깨달음을 얻었다.

아직도 일본의 노천온천들이 그림과 백엔스시, 에즈코호수, 아소산의 풍경들도 그림다. 집 사람은 지금도 일본드라마를 즐겨 보며 딸아이는 일본어 능력시험을 준비하고 있다. 일 년간 살면서 일본을 많이 이해하게 되었고, 서로 선의의 경쟁자로서 서로 교류하며 잘 살 수 있다는 확신이 생겼다. 그리고 여러 면에서 도와주셨던 학교 당국 및 교수님들과 교직원들, 국제교류실 직원 여러분들께 감사드린다.

구마모토학원대학 교환교수 안근식 배

見れば、感じられる国、日本

大田大学校 教授 安根 植

【2005年3月から1年間、交換教員として受入】

この1年間熊本学園大学に交換教授として滞在して日本に対する理解を広め、美しい思い出を得られたことに感謝したい。家族と共に過ごす幸せのなか、部分的ではあるが日本の社会現象や文化を理解しながら見識も養い、自分なりに国際化時代に賛同しているという自負心も持つことができた。

滞在中、私が何よりもうらやましかったのは安定した農業を通じて食べ物が豊富であり安全であったことと、80代の高齢者の旺盛な社会活動、そして誰もが秩序をしっかり守りながら礼儀正しく暮らす姿であった。

慣習より実用重視

私たち家族は毎週日曜ごとに熊本の韓人教会を訪れた。80代半ばの長老と執事の方々の経済活動と奉仕活動を見て、私も同じ歳になったときあのような活動が出来るだろうかと自分に問いかけ、ちょっとおかしい話だが豊饒たる熊本学園大学理事長の酒量を拝見して自分の体調管理にもっと気を使わなければという気持ちにもなった。

また、新任教授を紹介する席に招待されて行ったところ、白髪のご老人が新任教授として紹介されたことになかなか理解ができなかった。韓国では町の老人会や老人ホームに行かれるような方がどうして学校に来たのかと不思議に思った。しかし、「能力と必要に応じて教授を招聘し、立派に役割を果たすことが優先事項であって、年齢は二次的要素」という説明を聞き、日本の実用的かつ合理的思考にうらやましさを感じ、これこそが競争力の源泉だと思ったのだった。

玉泉院クイズ

自宅の近所に「玉泉院」という建物がある。ある日、妻と娘に玉泉院は何をするところかと尋ねたところ、酒場・レストラン・旅館・銭湯・宗教団体のどれかだろうと答えた。多分、住宅地に隣接していることからこう答えたのだろう。しかし、私が笑いながら葬斎場だと教えるところの意外な答えに自分たちをからかっていると思った妻と娘は、次の日その場所に直接確かめに行って笑ってしまったことがある。

墓の多い韓国の山と比較してみると日本の山野はあまりにきれいであった。埋葬文化と火葬文化という葬礼方法からくる違いである。これがきっかけとなって私たち家族も韓国に帰国後、納骨式墓地を準備した。すでに韓国でも火葬の割合が60%近いという。我々の子孫のためにも韓国の埋葬文化も変わるべきだろう。

すみませんと失礼します

私は日本の家庭や学校で列に並ぶことを教え、決められた区域にだけ駐車する社会や個人に迷惑をかけまいとする生活文化を高く評価する。前に出ず、目立つまいとする性向もこういった文化と脈を共にしていると考え。相手に少しでも迷惑をかけると「すみません」あるいは「失礼しました」などの言葉が自然と出てくる点は長所だと思う。

しかし、私は長所だけを見たわけではない。例えば日

本では親が子供の家に訪ねて行っても家に泊まらずに大部分がホテルや旅館などで宿泊するという。このようなことは韓国では目上への接し方を知らない親不孝者と指差されるだろう。情と和合の文化は韓国の方が優れたものをもっているようだ。人と人が暮らす世の中では共にもまれながら、また焼酎一杯でも交わしながら人生の喜怒哀楽を分かち合う対話が必要であり大事である。

献身的な先生

韓国では「恩師の影も踏んではならない」という言葉がある。先生は尊敬される人物だからだ。素晴らしい先生も多いが、韓国の一部の先生は政治屋なのか闘争家なのか本当に判断に迷う先生もいる。

娘が通った帯山中学校と黒髪小学校の先生方が誠心誠意指導する姿を見て、まだ日本の先生には権威があり献身的な責任感があるようだと感じた。実際、彼らの使命感と責任感人は並みはずれたものがあつた。担任の先生と保護者が書信交換を通じて生徒を指導し、PTA会では教権を尊重しながら学校行事を手伝い、協力する姿がととても好ましかった。保護者が誰でも何か一つの分野を受け持つという、平等に分担し奉仕する姿を見て、やはり日本は先進国だと感じた。10年前に米国で見た姿を日本でも見ている思いだった。特に、小中高校での部活動は芸術と体育強国の基盤となり、生徒自身の趣味にもつながって情緒を養う点でも良いことである。これまで韓国は入試に関する教育政策によって混乱する姿が頻繁に見られていた。教育を通じて成熟した社会は我々の将来を保障してくれるということを今更ながら知ったのだった。

いまだに日本の露天風呂が懐かしく、百円寿司、江津湖、阿蘇山の風景も懐かしい。妻は今も日本のドラマを楽しんでおり、娘は日本語能力試験の準備をしている。1年間暮らして日本をたくさん理解できたし、お互いが善意の競争者として交流しながら共に幸せになれることを確信した。そして様々な面において助けていただいた熊本学園大学及び教授や職員の皆様、国際交流室の職員の皆様に感謝したい。



家族と（筆者は右から2人目）

モンタナ大学の国際交流

商学部 教授 野 尻 秀 之

【2005年8月から1年間、交換教員としてアメリカ・モンタナ大学へ派遣】

8月中旬に成田を発ち、ミズーラ国際空港では、国際交流室の Squires 夫人が荷物搬送用のワンボックスカーで出迎えてくれました。早いもので帰国後1ヶ月以上経過し、滞在期間中に国際交流室のスタッフの方々から受けた温かい配慮を思い出します。お礼を兼ねて国際交流の様子を少し紹介します。

モンタナ大学は、本学を含め日本の5大学、日本以外では30大学と交流協定を結んでいます。国際交流室 (Office of International Programs : OIP) は、外国人留学生のための英語教育コースと同じ建物の中にあり、私の研究室もこの中に用意されていて、韓国からの交換教員の朴先生と Lofink 氏が同室でした。Lofink 氏は国際交流プログラム全体の調整と時々発生するトラブルの対応などが主な仕事のようなのでした。お世話になった国際交流の責任者の Kia 教授の部屋が隣ということもあり、時折、Lofink 氏と Kia 教授の会話が聞こえてきて、モンタナ大学の国際交流の様子が分かり、私にはよい経験になったと思います。

Lommasson Center の中にある FSSS (Foreign Student and Scholar Services) が発行しているニュースレターによりますと、2005年秋学期の外国人留学生は、75カ国から総数421人で、国別で多いのは、カナダの40人、中国の25人、韓国の18人などですが、日本からの留学生が105人

と一番多く、熊本県からの留学生も多いと聞いています。少子化で大学危機が問題となっている今日、このことは検討に値するのではないのでしょうか。

モンタナ大学の国際交流組織は大きく2つに分かれていて、OIP は、主に外国人教職員と留学生の受け入れ、モンタナ大学から他大学への派遣を担当し、FSSS は、Visa の手続き、受け入れた留学生と教職員の生活を支援する仕事をしているようです。11月の感謝祭には、FSSS の Seekins 夫人の家に招かれ、また、12月のクリスマスには Squires 夫人の家で、ご家族の皆様や中近東からの交換教員や交換留学生と歓談する機会を得ました。FSSS では、留学生のために支援計画の立案と実施を行っていて、毎週木曜日には、すべての学生に学内の必要な事務手続、祝祭日のイベントや旅行案内などの情報をメールで送っています。計画された行事は留学生のボランティア活動によって支えられていて、中でも最大のイベントは、春学期に行われる International Festival です。文化と食の祭典とも言われる催しで、各国のブースごとに留学生が民族衣装に身を包み、自国の手作りの料理でもてなしてくれます。私も中東や東欧の国の珍しい食事を楽しみました。

最後に、ここでは紹介できなかった教育・研究の場でお世話になった多くの方々にも改めてお礼申し上げます。



FSSS の Seekins ご夫妻、同じ建物の2階に住んでいたロシアからの交換教員のご家族と (筆者は右)

心もお腹も満たし、笑みを浮かばせてくれる学生の詩

外国語学部 講師 筒井 久美子

【2005年8月から半年間、交換教員として韓国・大田大学校へ派遣】

韓国・大田大学校での半年にわたる交換教員生活は、教員として、人間として、いろいろな意味で私を成長させてくれた。大田大学校で出会った学生、先生、そして職員の方々のおかげである。特に、さまざまな機会に聞くことができた彼らの人生や教育に対する考え方や経験談は私の大きな財産となり、今でもよく思い出す。

私は、平成17年8月から半年間、大田大学校で「韓日文化コミュニケーション」という新科目を教えた。この科目は日語日文学科長の関先生が私の専門分野を考慮して設けてくださったもので、日韓の相互理解を目的に、それぞれの文化、生活習慣、考え方等の類似点と違いを学ぶことがその内容である。受講者は、昼間・夜間のクラス共に日本からの交換留学生も含め、10人程度であった。授業はすべて日本語で、講義ではなくディスカッション形式をとった。毎週、学生は1つのテーマ（食生活、生活文化、教育、伝統儀礼、言語など）について出身国のリサーチをし、発表する。私は韓国語が全く話せないが、話す必要もないほど学生の日本語は流暢であった。たまに分からないことがでてくることもあったが、その時は、周りが助け舟を出し、いつも協力し合いながら授業は進んだ。いつの間にか議論から脱線し全く個人的な悩み相談になってしまうこともあったが、さまざまな話題でディスカッションは盛り上がった。今考えてみると、おそらく学生よりも私の方が楽しんでおり、毎回両国の文化について、そして学生各人について理解を深める貴重な時間となっていた。

この授業が始まって2ヶ月程経ったある日、私のアパートで課外授業を行った。交換留学生で十数年の茶道歴を持つ堀本君に協力してもらい、日本の茶道を紹介する傍ら、両国の料理を味わうという「おいしい」授業である。お茶会は本格的なもので、季節の花を置く配置までも考慮し、静粛の中行われた。初めて茶道を体験した韓国人学生の1人は後に「お茶を点てるのに必要な釜や柄杓、水差などの道具やお手前の作法にもどかしさを感じたが、そこに清潔さと思いやり、そしてお茶を点ててくれた人の真心を感じることができた」と感想を書いている。この日の食卓には、韓国人学生からリクエストのあった日本の餅入り鍋や、学生が作ってくれたチャブチュ（野菜のナムルを肉や春雨と混ぜ合わせた料理）やコルベンイムッチム（巻貝をきゅうりや人参などの野菜と酢コチュジャンで甘辛く和えたもの）などが並んだ。歓談後、私はその日の課題として、学生にその時の気持ちを俳句にしてもらった。以下が、学生が詠んだ俳句である。句を見るたびに、ひとりひとりの笑顔とあの日のことが鮮明に浮び、心温まる思いでいっぱいになる。個

性溢れる俳句をここに紹介し、多くのことを学ばせてくれた学生たち、また、このような機会を提供して下さった大田大学校と本校の教職員の方々に感謝の気持ちを表したい。

すすきの夜 笑顔あふれる エビと餅	朴 志遠
半袖で 飛び出て気づく 白い息	柴田さおり
国境なく 心満せる 冬の鍋	福島 大輔
高い空 人々は今日 肥えている	咸 雄熙
寒いけど アイスおいしい 冬の夜	田中美穂子
日韓の つどう夜には エビ光る	宮本 涼子
秋の夜 森のきのこは さびしいよ	秋 根榮
おいしいよ 本当ですよ 鍋料理	李 丞鎬
幸せを 招き入れるは 秋の旬	權 純美
秋の夜 おなかいっぱい 笑顔さく	李 孝珠
来た時と 同じセーター 袖通す	堀本 和弥
神様よ 酒食べ物よ 雪祈る	金 尚吾
酒飲んだ 俺の顔色 紅葉だね	金 鎮植
マジ寒い のうがしびれて にえきれぬ	沈 載吉
ホッカイロ はればビールも 飲みまくり	寺本真悠子
ぼくの顔 お酒を飲めば 紅葉だ	田中 紳也
オンドルが あたたかいよね 眠たいよ	유정은
寒くなり こたつがまるな 日本製	황지현
寒い今 酒と人々 最高だ	상은지

(敬称略順不同)



筆者は後列一番左



寮の歓迎会

毎回大勢の人で賑わっています



国際交流 写真館



キャンパスにて



付ちゃんDavid結婚おめでとう！
初めての交換留学生同士のカップル
誕生。末永くお幸せに〜。



ハロウィンパーティ



体育祭障害走で
お姫様だっこされるクリス
「恥ずかしいわあ〜」



和州地産のしごとブース



お城祭り
で着物体験

寮で
鍋パーティ



藤崎宮例大祭
神幸行列に参加
笑顔がステキ！



秋のバス旅行



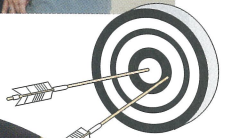
留学生女子リレーチーム



弁論大会で見事な演奏を披露してくれた、留学生バンド「Acoustic Tomatoes」!



弓道部で毎日頑張っています



託麻祭



「いらっしゃいませ～ブルコギもちヂミも美味しいよ～」

屋台の合間にBGMも担当♪



涙の日本語クラス終了式



連日大盛況の大韓倶楽部屋台には完売でした



水俣の競舟大会に出場

決勝までは進めなかったけど大健闘 Good job!



山都町 どんぐりにて



2006年海外往来

	交換留学生・教員（派遣）	交換留学生・教員（受入）
1月		
2月	<p>ラトローブ大学（森高沙織、荒巻沙織）、ユニテック（大隈千夏、甲斐雄一郎）出発</p> <p>大田大学校（福島大輔、田中紳也、柴田さおり、田中美穂子、寺本真悠子、堀本和弥、宮本涼子）、深圳大学（安武美奈、江崎志穂）、中国人民大学（岩岡憲太郎）、北京語言大学（山本佳奈）帰国</p> <p>大田大学校（筒井久美子先生）帰国</p> <p>北京外国語大学（田上真行、松島圭）、北京第二外国語学院（北島大介）、ベトナム国家大学ハノイ校（高木あゆみ）出発</p>	<p>ラトローブ大学（レオン・オールドフィールド）、大田大学校（兪輝在、白斗鉉、李壽連、朴鎮希、宋明俊、宋銀喜、金相恩）、ユニテック（徐淨、クリストファー・ホワイト）、ベトナム国家大学ハノイ校（レー・ミン・ヒェウ）帰国</p> <p>大田大学校（安根植先生）、深圳大学（蔡元慶先生）帰国</p>
3月	<p>大田大学校（小幡綾加、川野秀美、潮谷くらら、佐伯美幸、武田望、平野由恵、吉田真理、鹿島兼豪）、深圳大学（牧村勇希、畑中祐紀）出発</p>	<p>大田大学校（王秀瓊先生）来熊</p> <p>大田大学校（李尚勲）、深圳大学（莫雅娟、蔡昕宜）帰国</p> <p>大田大学校（崔定仁、金魯益、李善美、金容宇、千永珍、李秀源、金鎮植、金龍國）、リバプールジョンモーズ大学（パトリック・ジョイス）来熊</p>
4月		<p>深圳大学（賈嘉、張小燕）、北京第二外国語学院（高峰）、モンタナ州立大学（クリス・ヒューベア）、チュラロンコン大学（パーリーナー・ウンスッカセーム）ベトナム国家大学ハノイ校（ファム・チュック・クイン）、リバプールジョンモーズ大学（マリーカ・オパーラ）、桂林市（景悦、張軍）来熊</p>
5月	<p>モンタナ州立大学（江口藍）、インカーネットワーク大学（栗津武志）、セント・メアリーズ大学（城戸千明、森田茜）、リバプールジョンモーズ大学（寶生絵美）帰国</p>	
6月	<p>モンタナ州立大学（倉岡亜希子）、カールトン大学（高山奈採、森川真彦）、リバプールジョンモーズ大学（宮本三祐己）帰国</p>	
7月	<p>キャロル大学（高野清華）、ウィスコンシン大学オークレア校（李世恩、江口舞）、広西師範大学（吉野富士、馬場裕子／両名とも熊本市派遣）、ベトナム国家大学ハノイ校（高木あゆみ）帰国</p> <p>カールトン大学（上野浩太、坂本賢美）出発</p>	<p>モンタナ州立大学（サラ・ブゼッティ、クリス・ヒューベア）、キャロル大学（トッド・マケイ、アダム・ソロ）、インカーネットワーク大学（アンジェロ・パルド、ジェニファー・カラウェイ／両名とも熊本市受入）、セント・メアリーズ大学（マイケル・ヘンマン）、カールトン大学（李孟超）、ユニテック（クリス・エクホード）帰国</p>
8月	<p>チュラロンコン大学（喜讀真弓）、モンタナ州立大学（山部いずみ、下り藤卓実）、キャロル大学（荒木つかさ）、インカーネットワーク大学（白井美菜子）、ウィスコンシン大学オークレア校（廣田淑子、藤田翔子）、セント・メアリーズ大学（立尾諭世、入江夢子）、リバプールジョンモーズ大学（鳴神祐子、高島利沙）出発</p> <p>モンタナ大学（野尻秀之教授）帰国</p>	<p>リバプールジョンモーズ大学（マリーカ・オパーラ、パトリック・ジョイス）、カールトン大学（張綺玲）帰国</p>
9月		<p>モンタナ州立大学（ロブ・フェル、アンドリア・コナーズ、サムエル・ジェンセン）、インカーネットワーク大学（クリスタル・ゴンザレス／熊本市受入）、リバプールジョンモーズ大学（スティープン・マクナリ）、ユニテック（メロディ・チャン）来熊</p>
10月		
11月		
12月	<p>ラトローブ大学（森高沙織、荒巻沙織）帰国</p>	

短期派遣・研修団	その他	
		1月
短期派遣留学生（リバプールジョンモーズ大学8名、ユニテック4名）出発 短期語学ホームステイプログラム（オーストラリアコース17名） 2/18～3/18	深圳大学キャンパス建設視察団（6名）来学 1/18	2月
短期派遣留学生（リバプールジョンモーズ大学8名、ユニテック4名）帰国		3月
	インカーネットワーク大学アグニースィ学長一行（2名）来学 4/7 日本中国金融プロジェクト第4回国際シンポジウム 4/12～4/14	4月
	ユニテック ニック・シャックルフォード氏来学 5/29	5月
大田大学校学生研修団（20名）来学	大田大学校経営行政大学院訪問団（21名）来学 6/2 大田大学校経営行政大学院訪問団（21名）来学 6/23	6月
大田大学校学生研修団（20名）帰国 大田大学校学生代表団（学生17名、引率3名） 7/29～7/31	経済学部国際事情研修（ニュージーランドコース、韓国コース）出発 外国語学部海外研修（アメリカコース、イギリスコース、韓国コース、中国コース）出発	7月
	経済学部国際事情研修（中国コース）出発 経済学部国際事情研修（ニュージーランドコース）帰国 外国語学部海外研修（韓国コース、中国コース、イギリスコース、アメリカコース）帰国	8月
	経済学部国際事情研修（中国コース）帰国	9月
	モンタナ州立大学 デイビッド・エングバーグ氏来学 10/12 日本中国金融プロジェクト第5回国際シンポジウム 10/22～10/25	10月
	インカーネットワーク大学 アンジー・ホアン氏来学 11/14	11月
	アメリカ領事館によるビザ説明会 12/8	12月

2006年度春学期 出身国(地域)別外国人留学生数

【2006年5月1日現在】

地域	国名	学部留学生 Undergraduate					研究留学生 Undergraduate Research	大学院生 Graduate				交換 留学生 Exchange	合計 Total
		1年	2年	3年	4年	合計		1年	2年	博士	合計		
アジア	中国 China	10	31	26	20	87	4	9	4	3	16	6	113
	韓国 Korea	1			1	2						8	10
	マレーシア Malaysia											1	1
	ミャンマー Myanmar			1		1							1
	フィリピン Philippines											1	1
	タイ Thailand							1			1	1	2
	ベトナム Vietnam								1		1	1	2
北米	カナダ Canada											1	1
	アメリカ U.S.A.							1			1	5	6
欧州	イギリス U.K.											1	1
	イタリア Italy											1	1
ニアセア	ニュージーランド New Zealand											1	1
リアカフ	モロッコ Morocco								1		1	1	1
	合計 Total	11	31	27	21	90	4	11	6	3	20	27	141

2006年度秋学期 出身国(地域)別外国人留学生数

【2006年10月1日現在】

地域	国名	学部留学生 Undergraduate					研究留学生 Undergraduate Research	大学院生 Graduate				交換 留学生 Exchange	合計 Total
		1年	2年	3年	4年	合計		1年	2年	博士	合計		
アジア	中国 China	10	30	26	20	86	5	9	4	3	16	5	112
	韓国 Korea	1			1	2						8	10
アジア	ミャンマー Myanmar			1		1							1
アジア	タイ Thailand							1			1	1	2
	ベトナム Vietnam								1		1	1	2
北米	アメリカ U.S.A.							1			1	4	5
欧州	イギリス U.K.											1	1
ニアセア	ニュージーランド New Zealand											1	1
	合計 Total	11	30	27	21	89	5	11	5	3	19	21	134

2006年留学生参加イベント

名 称	主 催	内 容	期 日
成人式	日本現代和装研究会	着物の着付けと式典出席	1月10日
ユネスコ能楽ワークショップ	熊本ユネスコ協会	能面の体験・仕舞の鑑賞など	1月22日
お茶会	裏千家青年部国際ソロブチミスト熊本	茶道体験と昼食会	1月29日
日米協会交流会・新年パーティー	熊本日米協会	米国人大学生と協会員との交流会	1月31日
九州留學生産業交流事業	(財)九州地域産業活性化センター	留学生と企業人との交流や企業視察	2月23日
着物着付け体験	日本現代和装研究会	着物着付け体験	2月26日
企業人と留学生との交流会	YMCAフィナンソロピー協会 熊本留學生交流推進会議	熊本の企業人との交流会	3月11日
ひなまつり	熊本YWCA	着物の着付け体験・日本茶道の体験	3月12日
第24回熊本春節祝賀会	熊本県日中協会	中国人留学生と協会員との交流	3月15日
ユネスコ文化財を見る会	熊本ユネスコ協会	山鹿市と和水町へユネスコ会員と小旅行	3月18日
留學生の会	熊本YWCA	ホームビジット先の紹介と行事案内	随 時
熊本市広域防災センター見学	熊本学園大学国際交流センター事務局	防災センターで消防事情講話と火災体験	4月10日 9月20日
留學生による絵本の読み聞かせ	NPOブリッジ・そよ風パーク	留學生の母国語による絵本の読み聞かせ	5月20～21日
第19回熊本分区留學生交流会	熊本東南ロータリークラブ	他大学の留學生や日本人學生との交流	5月21日
第16回外国人留學生弁論大会	熊本学園大学国際交流委員会	本学留學生の日本語による弁論大会	6月17日
琴曲の祭典	熊本琴演奏者協会	琴曲の祭典への招待	6月25日
サマーファッションコンテスト	ヒロ・デザイン専門学校	ファッションショーへの参加	7月8日
城南町夏まつりホームステイ	城南町フレンドシップクラブ	城南町夏まつりの参加と1泊2日のホームステイ	7月22日～23日
火の国祭り	熊本東南ロータリークラブ	火の国祭りおてもやん総おどりに参加	8月12日
留學生インターンシップ	熊本県・(社)熊本県貿易協会	夏休み中の約2週間、地元の企業でインターンシップ	8・9月
第28回国際交流夏のつどい	財団法人 北海道国際交流センター	北海道で2週間のホームステイ	8月20日～ 9月2日
火伏地蔵祭	NPOブリッジ・そよ風パーク	祭り参加と地域の人との交流	8月27日
国慶節祝賀会	熊本県華僑総会	中国人留學生を招いての交流会	10月1日
九州地区国際學生交流フォーラム	日本學生支援機構 九州支部	留學生と日本人學生の交流と平和学習	10月7日～9日
くまもとお城まつり	日本現代和装研究会	着物の着付けと散策	10月21日
体育祭	熊本学園大学 体育常任委員会・第一部學生自治会	体育祭へ参加	11月1日
託麻祭		外国人留學生の模擬店出店	11月2日～4日
秋のバス旅行	そよ風パーク 熊本学園大学国際交流センター事務局	蘇陽・高千穂へのバス旅行	11月26日
留學生スポーツ交流会	熊本学園大学第一部學生自治会學生議會	日本人學生と留學生とのスポーツ交流・懇親会	12月9日
第3回熊本地区留學生シンポジウム	熊本大学留學生センター	留學生のプレゼンテーションと県民との交流	12月16日

交換教員往来



託麻祭にて家族と（王先生は中央）

王秀瓊 (ワン スギョン) 先生

(韓国・大田大学校)

2006年3月から1年間、交換教員として韓国語を担当

私は、大田大学校からの交換教員として家族と一緒に来熊しました。大田大学校では食品栄養学を教えています。熊本学園大学で、韓国語を教えながら日本語を勉強しています。

私の夫である金鎮培 (キム ジンベ) の専門は建築で、趣味は詩と書道です。息子の金世淵 (キム セヨン) の専門は歴史です。

家族共々、どうぞよろしくお願ひします。

2006年研修団往来

〈受入〉

研修団名	研修期間	団員数
大田大学校学生研修団	6月26日(月)～7月15日(土)	20名
大田大学校学生代表団	7月29日(土)～7月31日(月)	学生17名 引率3名

〈派遣〉

研修団名	研修期間	期間	研修先	団員数
経済学部国際事情研修 ニュージーランドコース	7月17日(月)～8月11日(金)	26日間	ユニテック EIT	14名 26名
経済学部国際事情研修 韓国コース	7月31日(月)～8月28日(月)	29日間	大田大学校	6名
経済学部国際事情研修 中国コース	8月1日(火)～9月3日(日)	34日間	北京語言大学	9名
外国語学部海外研修 アメリカコース	7月28日(金)～8月26日(土)	30日間	ベセル大学	33名
外国語学部海外研修 イギリスコース	7月28日(金)～8月26日(土)	30日間	デモントフォート大学	21名
外国語学部海外研修 韓国コース	7月29日(土)～8月26日(土)	29日間	梨花女子大学校	21名
外国語学部海外研修 中国コース	7月29日(土)～8月26日(土)	29日間	北京第二外国語学院	43名

INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAM COMMITTEE MEMBERS

国際交流委員会メンバー

国際交流委員長 Chair	中野裕治 NAKANO, Hiroharu	
商学部 Faculty of Commerce	杉田憲道 SUGITA, Norimichi	土井文博 DOI, Fumihiro
経済学部 Faculty of Economics	司馬公周 FENG, Yunze	朴哲洙 PARK, Cheol Soo
外国語学部 Faculty of Foreign Languages	野田耕司 NODA, Koji	林日出男 HAYASHI, Hideo
社会福祉学部 Faculty of Social Welfare	高林秀明 TAKABAYASHI, Hideaki	豊田直二 TOYOTA, Naoji
国際交流センター事務室 Office of International Programs	岡村健一 OKAMURA, Kenichi	喜佐田知子 KISADA, Tomoko

OFFICE STAFF MEMBERS

国際交流センター事務室スタッフ

室長	岡村健一 OKAMURA, Kenichi
室長補佐	喜佐田知子 KISADA, Tomoko
係長	切通しのぶ KIRITOSHI, Shinobu
	矢澤恵子 YAZAWA, Keiko
	大澤菜穂子 OSAWA, Nahoko
	牧亜希子 MAKI, Akiko
	寺田一利 TERADA, Kazutoshi 国際交流会館（事務室）

OFFICE HOURS

窓口時間

平日 Monday-Friday	9:00~12:30	13:30~17:00
土曜日 Saturday	9:00~12:30	

CONTACT ADDRESS

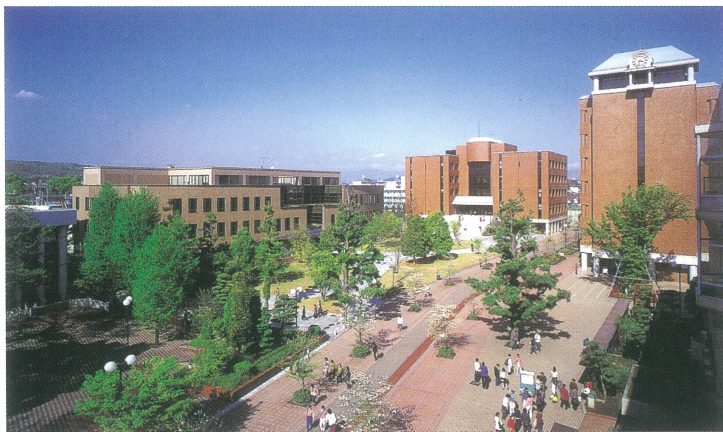
問い合わせ先

〒862-8680	Office of International Programs
熊本市大江2丁目5番1号	Kumamoto Gakuen University
熊本学園大学 国際交流センター事務室	2-5-1 Oe, Kumamoto 862-8680
TEL 096-366-3230 (直通)	TEL +81-96-366-3230
FAX 096-372-4112	FAX +81-96-372-4112

E-mail : ipkgu@kumagaku.ac.jp

URL : <http://www.kumagaku.ac.jp/office/kokko/index.htm>

2006年12月発行



国際交流レター 2006 vol.28

